

# Historical Materials about the Regional Accounts in Kaga Domain

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-07-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: UEDA, Hisao メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00055062">https://doi.org/10.24517/00055062</a>

This work is licensed under a Creative Commons  
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0  
International License.



## 加賀藩領の万雑関係史料(一)

上田 長生

紹介にあたって

日本近世において、領主・地域ごとの差異を孕みながらも、それぞれの領域ごとに多様な広域的入用が存在したことはよく知られている。久留島浩氏が<sup>(1)</sup>、幕領組合村・惣代庄屋制の研究の中で、郡中入用・組合村入用を分析し、「地方税」の歴史的前提」と位置づけ<sup>(2)</sup>て以降、地域社会論の展開の中で、萩藩・尼崎藩・新発田藩など、藩領での検討も蓄積されつつあるが、その数は多いとはいえない。

加賀藩領においては、こうした地域的入用は万雑(万造)と呼ばれ、近世後期には村万雑・組万雑・郡万雑という重層的な構造を有していた。旧来の加賀藩農村史研究でも、万雑をめぐる基礎的事項は知られていたが、その全体像や運用実態はほとんど解明されてこなかった。しかし、十村を中心とする加賀藩領の広域的な支配・運営を明らかにしようとした場合、地域的入用の検討は欠くことはできない。今回から数回にわたって万雑関係の史料を紹介するのは、それ自体を共有する必要とともに、加賀藩領社会の広域的な支配・運営を検討する手がかりとするためである。

従来、加賀藩領の万雑について言及する際に取り上げられたのは、

天保十一年(一八四〇)の「村万雑取立方高懸り・家懸り等振分取極之義奉親申帳」である。『加賀藩史料』第一五篇(財団法人前田育徳会、一九四三年)に収録され、小田吉之丈『加賀藩農政史考』(国書刊行会、一九七七年、原本一九二九年)や『金沢市史』資料編一〇近世八(金沢市、二〇〇三年)にも収められており、著名な史料といつてよい。本稿でも、史料2の8項目めに収載している。この史料では、越中国砺波郡の十村達が村々における万雑の徴収方法が区々となっていることを問題とし、様々な入用の費目ごとに、

高懸り(所持石高に応じた割付け)・家懸り(家ごとの均等割付け)・面懸り(持高に関わらず、家格を示す基準Ⅱ面に割付け)の三つと、それらを組み合わせた徴収方法を取り決めようとしている。この伺いが藩の採用するところとなり、加賀・能登・越中の加賀藩領全域に及ぼすように改作奉行が指示したため、各地の十村や村肝煎の文書中に見出すことができるのである。

その意味で、右記の史料集などが、この史料をもつて万雑を説明してきたことは故無しとしない。ところが、今回紹介するように、実際には改革は万雑に限定されたものではなく、村役人の給米などと連動するもので、その後数年にわたって三か国の十村達が検討を

続けていた。また、次回以降紹介するように、嘉永期以降、藩が主導して再び万雑の改革が行われるが、こちらはこれまで全く検討がなされず、天保一一年の「村万雑取立方高懸り・家懸り等振分取極之義奉窺申帳」のみで万雑の説明を済ますことが通例であった。<sup>(3)</sup>その背景には、万雑改革に関わる史料がいずれも非常に大部で、自治体史類での紹介が難しく、史料自体が共有されていないという事情がある。この紹介を企図した理由はそうした点にある。本稿をふまえた加賀藩領の万雑とその改革の分析は別稿を用意している。

最後に、今回紹介する史料について、若干の解説を加えておく。史料1は、砺波郡において村肝煎の扶持米のあり方を取り決め直した一連の史料である。村々の万雑の増大を問題とした十村達は、その背景を、延宝四年（一六七六）以来村肝煎の扶持米高が改訂されていかなかったために、肝煎達が役務の増加・複雑化によって生じた諸経費を万雑に繰り込んでいることにあるとみていた。従って、改革の対象は村肝煎・組合頭の勤方や扶持米に及んだ。

史料2は、右記の「村万雑取立方高懸り家懸り等振分取極之義奉窺申帳」をはじめ、肝煎扶持米や村算用帳の書式の取り決め、万雑の賦課・徴収の方法などについて、加越能の御扶持人十村が相談・決定した一連の史料を収める。

こうした万雑徴収方法の改革を遂げられた村々からは、その詳細について問い合わせが相次いだようで、天保一四年閏九月に砺波郡の御扶持人十村達がそれらについて相談・決定した施行細則ともいふべきものが史料3である。

なお、史料の翻刻にあたっては、人名・地名を除いて旧字体は新

字体に改めたが、異体字はそのまま残した。また、御扶持人十村の連名部分はいずれも二頁に渉るが、左の順番で二段組で表記した。

	一頁目		二頁目
	1	4	7
-----	2	5	8
	3	6	9
-----			10
			11
			12

注

(1) 久留島浩「『地方税』の歴史的前提―郡中入用・組合村入用から民費、地方税へ―」、『歴史学研究』六五二、一九九三年、「百姓と村の姿賞」  
 (2) 『岩波講座日本通史』第二五巻近世五、岩波書店、一九九五年、「近世藩領の行政と組合村」(東京大学出版会、二〇〇二年)。

(2) 田中誠「『萩藩郡村費の研究』」、『近世の検地と年貢』塙書房、一九九六年)、志村洋「近世後期の大庄屋組行政と地域的入用」、『日本史研究』五六四、二〇〇九年)、安宅俊介「新発田藩領における地域的入用」、『万雑』の構造」、『新潟市歴史博物館研究紀要』八、二〇一二年)、原直史「支配錯綜地帯における地域的入用―新発田藩の万雑とその周辺―」、『環東アジア地域の歴史と「情報」』知泉書館、二〇一四年) など。

(3) ただし、『加賀藩史料』第一五篇には、今回紹介する史料2の四項目めが「杉木氏御用方雑録」から引用され、『金沢市史』資料編一〇近世八では、嘉永期以降の万雑改革に関わる史料も数点収載されている。

1、天保一三年「肝煎扶持米等取極一件」

(富山大学附属図書館・川合文書梅〇四四一〇〇)

(表紙)

天保十三年

肝煎扶持米等取極一件

戸出又右衛門

- 一 肝煎扶持米割符、暨諸万造取立方等取極申渡候ヶ條書
- 一 肝煎・組合頭等勤向品々大綱
- 一 村々肝煎扶持米等詮儀方心得之事
- 一 延宝四年肝煎扶持米之取極之儀拔書帳
- 一 延〇年(宝)中砺波・射水肝煎扶持米、取極之分ニ式割増仕出を以、扶持米詮儀方一件

(内表紙)

天保十二年丑九月

肝煎扶持米割符、暨諸万雜取立方等取極申渡候ヶ條書

砺波  
御扶持人等

- 一 肝煎扶持米高相極候上、割符方之儀頭振家老軒ニ式升宛、其余高二三ノ式、軒敷二三ノ老割符可致候、尤先振を以三ノ老面割ニ為致可申儀ニ候得共、是迫村ニ寄居百姓迄之面ニ上中下三段ニ割候様之分も有之、中ニ八面平均ニ割、小前名高之者共及難儀候村方茂有之体、以来ハ懸作面打込、三ノ老ニ当ル内、頭振老軒ニ式升宛取立、此分引去残り米之内乃至持高老石以下者式升何合与欵、五石以下者三升与欵、其余五石以上之者面平均割ニ為致欵申与欵、釣合程能様村方示談之上取極可申事
- 但百姓数纔ニ而、三ノ老面割出来兼候様之分ハ、組才許手前ニ而得与調理付、詮儀之趣御扶持人示談之上取極可申事
- 右之通高与面与ニ割符可致義ニ而、家割ニ而ハ無之、先達而万造取立方振分窺帳之写渡置候帳之内、肝煎扶持米之处、但書ニ高二三ノ式、家・面二三ノ老与申儀も有之ニ付、書拔申談置候事

附り面割之儀、寺社并御扶持人・十村・新田才許・山廻・肝煎家指除、残り百姓家ニ割符可致、尤高割之義ハ寺社方等茂省キ不申、惣高割符ニ可致事

一頭振式升宛取立方之儀、惣米之内ニ而式升宛取立、其余高三三ノ式、残り三ノ壹面方取立可申、又ハ惣米之内三ノ式高割分引去、残り三ノ壹之内式升宛取立、残り面方取立可申与、兩様之内村柄ニ方詮儀方取極可申聞事

一頭振式升宛取立方之儀、先達而万雜取立方振分窺帳之写渡置候帳之内、村走り給米但書之處ニ、此分高三三ノ式、家・面三ノ壹割符、頭振ハ壹人式升宛為出、右給米之内引殘而、右之通割符可致事ニ調有之候得共、肝煎扶持米之内江も式升、村走り給米之内江も式升、合四升可出訳ニ候得共、所ニ寄迷惑可致義ニ付、頭振式升肝煎扶持米之方江為出候義も可有之事

一肝煎身当面割之儀者、居村并其村新開暨分封高之義者指省キ可申、懸作村面割之儀者指省不申、外人々同様之事

附り当分肝煎代并加人之儀ハ指省キ不申事

一大高所村肝煎、兩人或ハ三人相立候ヶ所、其村肝煎扶持米高人数ニ配当之事

一町立・宿立肝煎扶持取極之儀者別段詮儀之事

一走り給米村ニ寄不同有之、往還筋或ハ御用村送り状等烈敷ヶ所者、大体指定居候得共、其余近来無謂増方ニ相成候分も有之体ニ候間、

以来相増候義不相成、併増方不致而難成村方ハ、肝煎・組合頭等示談之上、隣村多少之振茂取調理、村役人方組才許江申聞、可受指図事

附り右給米割符方之義者高三ノ式、面三ノ壹之事

一肝煎扶持米、此度取極候上、以後右扶持米を以御用相勤、筆墨料并飯代等諸事入用村方江相懸不申様可相心得事、村々用水并道橋普請入用材木等買入方之義、前広長百姓等立会取調理、其時々通帳等を以調理付置、重而割符之刻紛敷義無之様入念ニ可仕事

一春秋夫銀并打銀等、百姓中割符取立物之儀、是迄指合等中二者煩敷義も有之体、以来者早春方壹ヶ年分通帳ニ仕立置、組才許等何時引揚致披見候而茂能相分り候様調置可申事

一肝煎等は迄御用ニ罷出候砌、或ハ八年暮皆済算用之刻、所々飯米代中二者酒等雜費書出候様之向茂有之体甚不埒之義ニ付、以来右様飯米代等自分払ニ為致可申、併御用指合候而、代り組合頭之内相勤、宿料有之候ハ、成限致詮儀可申事

一御郡所・御改作所、其外加劔改方・魚津御郡所等御召人有之刻ハ、役人宿料迄村方方為儀候与欵、村々仕来之儀も可有之、得与村役人致詮儀、難決品有之候ハ、組才許江相達可受指図事

一村々用水江筋取入口普請之刻、并肝煎を始焼飯料与名付、式升宛とか相見料取請居候様之分茂有之体、右等不相当義ニ候条、以来ハ相見体指止可申事

但御普請并用水ニも寄六ヶ數取柄有之候ハ、江下等役人示談之上何与欵一作之取極可致義ニ候間、組才許江可申聞事

一川筋等定檢地御手合等御普請有之村々、右同断之夏

一村ニ寄領内普請ヶ所割合いたし、組合頭之内主附を立、人足遣之名目ニ而、乃至壹人ニ付五斗、或ハ壹石宛与欵相立、肝煎人足遣も不致様之村方も有之、是等不相当義ニ付、以来ハ堅為指止可申、

併大村等肝煎老人二而手も廻兼候様之村方ハ精誠致詮義、人足米相極、右様之分ハ肝煎扶持米之内何程加入為致候与欵可申聞、組才許方二而得与加詮儀、其上廻り口江相談之夏

一村ニ寄領内普請ケ所入用米所々ニ而取極、百姓持高二応シ相勤居候村方も有之、中二者入用米何拾石与以前方取究、株持同様ニいたし居候村方も有之体、甚不埒至極之義ニ候、以来者惣高割を以人足為相勤可申事

一掛作多之村方杯ハ、一村之人足米先年方何拾石与欵取極、年々取請来候村方も有之、是等甚不正之至りニ付、以来相改候様急度可相心得事

一御蔵入御收納米并諸返上等余荷米区々ニ相成居候、今程納方嚴重相改候上ハ、繩皮等余荷暨御蔵所遠近を見斗、百姓并小前之者共迷惑無之様、村役人長立候百姓得与及示談可申聞事

一村々米錢万雜割符帳、去年算用帳ニ相添指出候上ハ、村々万造定書与引競、尚更村役人手前相尋、定書ニ無之。條ハ組才許僉儀いたし可申義ニ候間、綿密ニ可相心得事

一御作事所御普請方有之節、棟梁等ニ而茂仕手方ニ罷越申分ハ、御用宿二仕問敷、相对自分私ニ為致可申事

一諸役人宿雜費之儀ハ、兼而取極之通卦々書記置可申事

一諸役所江御呼出人身当り雜費ハ、其人々々為出可申、指添役人宿料追高・面方余荷可申事

一村方諸普請人足料之義ハ、一日老人式升充之事

一藤内給米何程

但相定候外、若無抛万造江打申臨時之品出来之時分ハ、組才許

江相達指図請打可申、其外村ニ寄定式取極居候ケ所ハ、右二準シ、組才許江可申聞事、尤先達而渡置候万造振分ケ窺帳之内、

廻り藤内給米但書之処、組方高・面半々々相立可申与調有之候此儀其村々之高ニ半分、面ニ半分之事ニ而、組方与有之義ニ泥申間敷、此義為念申談置候事

万雜振分ケ窺帳之内、人々々出候品

不埒之参会御詮儀入用并人足料

賊いたし候者入用并人足料

賊難ニ付入用并人足料

喧嘩・口論懸り合一件入用并人足料

附り見届方入用

右四品ハ人々々出候而可弁義ニ候得共、全出道無之分ハ、親類方取立、或ハ品ニ不埒参会入用杯ハ五人組方為馳合候儀も可有之、勿論親類等も居不申候而、過分出道無之分ハ家割并面割ニいたし可申分も可有之、其時々可申聞、其上組才許詮儀を以高方々余荷為致候義も可有之事

一以来算用帳才許見届印章いたし可相渡候間、帳才許江可指出、尤於村方諸書物またし方等不行届候間、仕抹方大事ニ相心得可申事

右近来村々万雜等諸雜費次第増長いたし候ニ付、精誠ニ相成候様いたし度、依而諸郡御扶持人示談之趣相達候而、御聞届を請一統申渡候条、以後遽乱不致、綿密ニ被相心得、勿論此上不時之儀等有之候ハ、其時々被申聞指図請可被申事

砺波

天保十二年九月

御扶持人  
組裁許

丑九月三日方寄合

相談取極覚

一諸郡村々肝煎扶持米取極書上帳之内、肝煎扶持米延宝四年取極書上之分ハ加筋・能筋・新川之分ニ而書上有之、砺波之分ニ而ハ無之候間、組才許其心得可有之事

一山中ニ而変死人等有之節之檢使見届入用ハ、山持并高方方可相弁事

一村肝煎用水方ニ付、井肝煎相同シ用水才許方等江罷出候義ハ、平常村方余御用ニ組合頭組裁許方江罷出候も同事ニ候間、たとへ用水才許方江罷出候とも料米相渡候ニ不及候、併井肝煎指支、井肝煎之名代ニ村肝煎用水才許并遠所江罷出候節之料ハ、組合頭料米ニ準シ、江下方雜ニ相立可申事

一懸作面打込割符之品ハ、肝煎扶持米并走り給米も、肝煎扶持米之振を以取極可申との事ニ候間、其余指図無之義ハ致申間敷、此義村々心得之事

一稼道修理人足料之義ハ、高卜家卜ニ半々割之事

(内表紙)

天保十二年丑九月

肝煎・組合頭等勤向品々大綱

砺波

肝煎扶持米之内ニ而調筆方并料紙共可相弁品々

一人別帳

一持高帳

一算用町

一開作帳

一納所帳

一二日読御請帳

一八拾歳者并九拾歳者書上

一新古有米有無書上

一貳才駒・三才駒有無書上

一八月方末步入半紙目錄

一夫喰御貸米等借用帳

但作高調理等不時之急成品ハ、肝煎并組合頭・長百姓取懸

り可相弁、料紙者肝煎方可相弁事

一 村方ニ而御收納等品々取立もの帳面并諸万造仕立帳

一切高寄目録

一 御助小屋入願

一 早稻・中稻歩数帳

一 麦・菜種歩数帳

一 歟役米帳

一 御蔵番・道番人等立替伺書付

一 返上米帳

肝煎扶持米之外調筆書人之身当り并

村方惣懸り之分

一 宗門帳

一 跡目立并後見願・後見明御請

一 百姓中引越願

一 寄高願

一 分高願

一 一切高長証文

一 垣根等七木捍領願

一 縁組并養子願

一 諸商売等願方并諸事断方

一 人別送願

一 散役退出来帳

一 古手・古道具願

一 走り人断

一 賊難断

一 川筋御普請丁場帳

但此分村高惣懸り

一 百姓分書上

一 御田地割願并定書

但此分村高惣懸り

一 肝煎願

但右同断

一 新開願并手上高・手上免等

一 都而何品ニよらず領内見分

肝煎江ハ宿料迄相渡、組合頭江ハ

宿料并日懸り共可相渡分

一 村方申分ニ付指添罷出候分

一 九拾歳者召連

肝煎迄ニ而可相弁品

一 御扶持人等宅々江作方ニ付罷越候義并引免等御礼勤

但御扶持人等出府之節、肝煎罷越致出府候内、宿入用等肝

煎ハ身出シ可仕、肝煎指支不罷越候節、組合頭指越候而も宿

入用等肝煎方可相弁事

一 肝煎之義、皆済詰之砌、御蔵本等江出張候節、宿料身当りニ而可

相弁事

肝煎老分二而可相弁品々

一入米半紙目錄達方

一御普請所并用水堤等勢子

一組才許并散役才許江諸上納銀等持參、并組才許方受取候銀子等請

取人

但肝煎二百姓惣代相同シ罷出候分ハ、惣代江ハ料米可相渡事

右之内御普請所等肝煎老人二而ハ手も廻り兼、組合頭も罷出候

得ハ、組合頭江ハ料米可相渡事

一碁盤割竿初案内

肝煎・組合頭罷出相勤候内、組合頭江料米可相渡分、尤

肝煎江ハ料不相渡分

一新開方

一御林方

一散役方二而舟御極印打入候節等

一変地方

百姓中勤候而料米相渡候分

一春秋夫銀、御給人江上候人足料

一皆濟狀請取人足料

一百姓分上候人足料

一御知行出御祝儀并早稻初穂上候人足料

右之通勤向品々大綱取極申渡候間、無遠失可被相心得候、尤相洩候

義者組才許江被伺出候得者可及指図書

丑九月

砺波郡

御扶持人

組才許

村々肝煎扶持米等詮儀方心得之事

一当十五日五ヶ村之内功者成役人老人宛呼立、村々ニおゐて是迄肝

煎扶持米之外、紙代・人足料・宿賃杯都而肝煎方江取請候品々、

米銭相しらへ候様無急度申渡、帳面ニ為仕立、当廿日迄二組才許

手前江取立可申事

但組合頭料米、年分何程与相極取立来候分も本文与一集二相

しらへ可申、將又本文之米銭卷ヶ年分二而ハ、例年之取立方

与格別相速有之体之村々茂可有之候間、所々寄四・五年之分

相しらへ可申事

一右書物取揃候上、是迄之肝煎扶持米調理帳ニ、今度御取極申候扶

持米員數付札いたし、当月晦日村々肝煎・組合頭并長百姓之内老

人呼立、右付札帳并前段之しらへ帳相渡、大体之村方ハ諸郡取極

通可相心得旨申渡、其内征合より相減候分ハ何欵相減与申儀等五

ヶ村役人等一統為致相談候上、右調理帳ニ取極可然程之米高下ヶ

札為致、重而左之案文通寄合ニ書出可申事

中折横折長帳ニ

天保十二年九月村  
村肝煎扶持米御定方以後征合相減候分書上申帳

何組

草高

一何百何拾石

何村

(母)  
分卦高

一何拾何石

同村

是迄之扶持米

何石何斗

以後扶持米

何石何斗

合何ヶ村

右村々難洪村二而前々より扶持米相減居、此度も外々御取極之分与ハ相減申度奉存候

右村々下免所二而与欵

丑九月

何組

右之通重而寄合之節可書出事

一右御定与相逮之ヶ所、扶持米治定之義ハ追而可申渡旨可申渡置事

一万一御定与相増度与欵、又ハ謂有之、是迄之通二相心得申度与欵

申聞候様之分ハ、追而寄合相談之上可相窺事

一組高帳入之分卦高(母)幾口有之候とも、古高江高数打込征極可申事

一惣高附廻、新開高并分持新開之分ハ、高数等二寄見図り之支

一分持古高之分ハ、其村古高征合を以極可申事

丑九月

寄合

(内表紙)

天保十二年八月

延宝四年肝煎扶持米之取極之儀拔書帳

肝煎給米相極品々図覚

一草高五拾石迄

八斗、山方人数多

所ハ老石五斗

老石式斗、山方人数

一五拾石方百石迄

有之所ハ壹石七斗

一一百石方貳百石迄

壹石五斗、山方人数  
多所ハ貳石

一貳百石方三百石迄

貳石、山方人数多  
所ハ貳石五斗

一三百石方四百石迄

貳石五斗

一四百石方五百石迄

三石

一五百石方六百石迄

三石五斗

一六百石方八百石迄

四石

一八百石方千石迄

四石五斗

一千石方千五百石迄

五石

一千五百石方貳千石迄

六石

一貳千石〇式千五百石迄

七石

一貳千石五百脱之方三千石迄

八石

一三千石以上

拾貳石

一宿方之義ハ、村高無構家数并御用之品多ニテ、老ケ所切給米図り

相極事

一浦方無御座事

一肝煎扶持出シ様之義、頭振家老軒ニ貳升宛、其外ハ高二三ノ二、

家老軒二三ノ卷割符可仕事

一居村ニ而も、他村ニ而も、懸作高二而も、下ニ而相對を以受取支配

仕分ハ、先百姓之通家数何軒ニ而も相勤可申事

但 御公儀方被仰付候同他ハ何軒之絶跡支配仕候而も、此分家

役 相勤可申事

一大高之村方〇肝煎貳人相立候所、図之給米式ツ割半分宛為取立可申

事

一村二々走り抱置給米之義ハ、所ニテ高下有之格迄極書付之義難成

ニ付、向後も百姓中勝手次第召置可申事

一走り給米割符之義ハ肝煎扶持同事ニ可仕事、右向後村々肝煎扶持

品々一書之図りを以相極申候、然上者此給米之外墨紙代、又ハ何

方江相詰候共、賄其外諸事入用等少シ夜小百姓方為出申間敷候、

為後日帳面ニ記上之申候、以上

砺波郡

十 村 判

御 扶 持 人 判

御 改 作

御 奉 行 所

一五ヶ山ハ銀納所ニ付、余村山方之肝煎扶持米図りを以直段老石ニ  
付四拾目ニ図り、銀子相極申事

砺波郡新町肝煎給銀米図之覚

延宝四年六月極給米拾石

一七石五斗

井波町肝煎老人

此割符頭振老人ニ貳升宛、引残分草高二三ヶ式、百姓家二三

ヶ卷

同三石

一三石

福野村肝煎老人

此割符頭振老人<sup>式升</sup>二〇充引、残り分草高二三ヶ式、百姓家二三ヶ

卷

同貳石

一貳石

福光新町肝煎老人

此割符町口間數二半分、面二半分

同貳石五斗

草高貳拾七石

一貳石五斗

津沢村肝煎老人

此割符頭振老人二貳升宛、引殘草高二三ヶ式、百姓家二三ヶ

卷

同五石

草高九拾六拾五石

一五石

埴生村肝煎老人

右同斷

同三石五斗

草高百石

一三石五斗

杉木新町肝煎老人

此割符草高二半分、頭振町口間數二半分

同六石五斗

草高四百五拾四石

一六石

福町肝煎老人

此割符百姓面二半分、頭振面二半分

同三石五斗

草高貳百八拾石

一三石五斗

福岡町肝煎老人

此割符頭振老人二貳升充、草高二三ヶ式、百姓家二三ヶ卷

同六石五斗

草高七百拾三石

一六石

立野町肝煎老人

此割符貳石五斗立野村、草高四石七ヶ所惣百姓中并頭振家數

同六石五斗

草高千三拾三石四斗

一六石

佐加野町肝煎老人

此割符頭振老人二貳升充、殘分草高二三ヶ式、百姓家二三ヶ

卷

同四石五斗

草高四百三拾六石

一四石

和田新町肝煎老人

此割符頭振老人二貳升充、殘分草高二三ヶ式、百姓家二三ヶ

卷

同五石

草高五百六拾五石

一五石

内卷石用水肝煎

戸出村肝煎老人

右同斷

同六石五斗

草高千貳百八拾四石

一六石

中田町肝煎老人

右同斷

以上

延宝四年正月廿三日

御改作  
御奉行所

肝煎勤方段々相増申二付、元禄十一年三月仲間中詮義之上、給米三割増相願申留、元禄十一年之留帳ニ有之、其上余郡方砺波郡之義ハ肝煎給米すくなく旨ニ而相願申旨ニ候

三清村与五郎組下井波町肝煎、宝永四年方享保十九年迄十右衛門相

田中村	三右衛門
和泉村	市右衛門
宮丸村	次郎四郎
戸出村	又右衛門
三清村	与五郎
大西村	次郎左衛門
福光村	宗左衛門
浅地村	孫九郎
金屋本江村	長左衛門
東保村	次郎兵衛
内嶋村	孫作
大瀧村	猪之助

勤申候所ニ、給米拾石御座候得共、井波町之義者宿並故、馬借等御座候ニ付、昼夜共御用繁候所、外ニ馬肝煎茂無御座、兼役ニ相勤來り申候故、井波町百姓中納得之上、先々肝煎相務候時分、宝永貳年方正徳四年迄右拾石之外、百姓中五石相増、拾五石充請取來り申候、正徳五年方享保十七年迄ハ給米拾石之外、銀四百目納得之上相渡申候、享保十八年ハ右拾石之外、御切手米商充人方米壹石に付三厘充取立、都合四百拾壹匁分受取申旨先肝煎申候、享保十九年九月方当肝煎九左衛門相勤申候、右増給銀先年方被仰渡之趣ニ而も無御座候間、請取可申候哉与当肝煎相断候ニ付、私共詮義仕候所、早竟下ニ而仕置申義ニ御座候に付、難承居義ニ御座候、併井波町肝煎給米之義ハ拾石ニ而ハ相勤兼申候間、拾石之外増給米私共詮義仕、相圖御断申上度奉存候ニ付奉窺申候、以上

元文二年七月廿日御場上ル

御改作

御奉行所

御付札ニ

本文肝煎給米相増候義見届候、惣而肝煎給米之儀ハ其方共詮義之上相極義ニ候得者、増減之義不及貪着候、以上

午七月

改作奉行

又右衛門
長次郎
三右衛門
彦市
傳右衛門
久左衛門

村肝煎給米図り定

井波肝煎	一式千石方貳千五百石迄	七石
九左衛門殿	一式千五百石方三千石迄	八石
同所組合頭	六兵衛殿	拾貳石
同	宗左衛門殿	
同	次郎兵衛殿	
同	助右衛門殿	
同所	惣百姓中	
一 小高五拾石迄	八斗、山方八 老石五斗	
一 一五拾石方百石迄	老石貳斗、同 老石七斗	
一 一百石方貳百石迄	老石五斗、同 貳石	
一 貳百石方三百石迄	貳石、同 貳石五斗	
一 三百石方四百石迄	貳石五斗	
一 四百石方五百石迄	三石	
一 五百石方六百石迄	三石五斗	
一 六百石方八百石迄	四石	
一 八百石方千石迄	四石五斗	
一 千石方千五百石迄	五石	
一 千五百石方貳千石迄	六石	

一式千石方貳千五百石迄 七石  
 一式千五百石方三千石迄 八石  
 一三千石以上 拾貳石

右給米割符之次第、其村々惣高二三ヶ斗、残而三ヶ老ハ御扶持人・十村・村肝煎・寺社家指除、唯<sup>今</sup>追御役仕来り申百姓数ハ不及申上、出来百姓共割符仕候様ニ可被仰付候、以上

一 寄肝煎之義、第一本村之次ニ寄村之わざ相勤候得者、不勝手之義も在之候、勿論詮義能仕、寄肝煎ニ不仕候て不叶村を願可申候、有来分ハ格別先規之通其村々ニ肝煎相立候様ニ可相心得候之旨、大御奉行衆被仰渡候由、辰四月朔日相談所ニ而半助様被仰渡候<sup>(増田、算用者)</sup>

金屋本江村長左衛門組杉木新町肝煎増給銀之義、<sup>□</sup>方共書付之趣見届候条、切米之外銀高百目増給銀申付候間、其段可申渡候、以上

申四月四日 改作奉行

砺波郡御扶持人・十村中名書有

右御本紙ハ金屋本江ニ有

三清組理休村肝煎并藤橋村肝煎之義も、増給米之義、御改作御奉行江窺申所、中間詮義仕、其上増給米可申付旨被仰渡ニ付、相談所ニ而中間相談之上、両村共増給米申付ル

延宝年中砺波・射水肝煎扶持米取極之分ニ式割増仕出を以扶持米詮儀方一件

肝煎扶持米増方等之義、去年中諸郡相談を以取極御達申上、則御場江御達之上、御聞届之御印章被成御渡ニ付、割符方ニ取懸候所、中ニハ過分之増方ニ相成、高持共格別迷惑およひ候村々も有之、難決いつれ其増様御窺不申上而者取極方も出来不申ニ付、先去年之所是迄之通ニいたし置候、元来右肝煎扶持米格別相増候訳者、延宝年中取極有之所、加笏三郡・能笏并新川郡方御達申上置候分ニ式割増被仰付候故、同年御達之分ハ砺波・射水兩御郡分ハ余郡与者小クニ付、過分之増方ニ相成申義ニ付、先達而取極之分者増方之つはニ仕、是方上江ハ一円出不申事ニ仕、其余之分ハ延宝年中砺波郡方御窺申上候分ニ式割増仕、夫を征与いたし、其上村柄御用之多少ニ寄、其征ニ而行足不申村々ハ、幾重ニも村ニ附加詮義、増方いたし可成相勤候而も、此末不正不仕所江至可申、元来肝煎扶持増方被仰付候御趣

意者、村万雜減方御詮義も嚴重可被仰付管ニ候得共、第一肝煎扶持米先年之取極故、当時ハ其扶持米ニ而弁兼候向多有之ニ付、今度増方被仰付候上者、少シ茂万雜等ニ紛敷義無之様可相心得、自然不明之義等有之候得ハ、嚴重御咎可被仰付御趣意ニ候間、扶持米増方之義者右御趣意を以詮義仕候段、当〇月廿九日御改作所ニ而安田新兵衛様御老人御出ニ付、覺兵衛方申上候所、其義御聞届可被成、猶更御同役中様御示合置可被下旨、御同人様方被仰渡候事

延宝四年之極ニ式割増仕出シ

- 草高 (朱書) 一八斗
- 一五拾石 硯石 (朱書) 山方人数多所ハ 硯石八斗
- 一五拾石方百石迄 硯石式斗 (朱書) 硯石七斗
- 一五拾石方百石迄 硯石五斗 (朱書) 山方人数多所ハ 式石
- 一百石方式百石迄 硯石五斗 (朱書) 山方人数多所ハ 式石
- 一五拾石方百石迄 硯石八斗 (朱書) 山方人数多所ハ 式石四斗
- 一五拾石方百石迄 式石 (朱書) 山方人数多所ハ 式石
- 一五拾石方百石迄 式石四斗 (朱書) 山方人数多所ハ 式石
- 一三石方四百石迄 式石五斗 (朱書) 式石五斗
- 一三石 (朱書) 三石
- 一四石方五百石迄 三石 (朱書) 三石六斗
- 一五石方六百石迄 三石五斗 (朱書) 三石五斗
- 一五石方六百石迄 四石式斗 (朱書) 四石式斗
- 一八石石迄 (朱書) 四石
- 一六石方七百石迄 四石六斗 (朱書) 四石六斗
- 一七石方八百石迄 四石九斗 (朱書) 四石九斗
- 一四石五斗 (朱書) 四石五斗

一 八百石方千石迄

(朱書) 五石四斗

一 千石方千五百石迄

(朱書) 「五」石

一 千五百石方貳千石迄

(朱書) 六石

(朱書) 「六」石

一 貳千石方貳千五百石迄

(朱書) 七石貳斗

(朱書) 「七」石

一 貳千五百石方三千石迄

(朱書) 八石四斗

(朱書) 「八」石

一 三千石以上

(朱書) 九石六斗

(朱書) 「拾貳」石

(朱書) 拾四石四斗

右延宝年中砺波・射水取極之分二、此度貳割増仕出候所、右之通

二御座候、尤朱書ハ延宝〇中之分二而、御心得二記置候間、尚更

其御心得二而御詮義有之、御取極重而之寄合二御書出、御相談之

上村々江申渡方等尚又御相談ニおよび可申候

一町立・宿方之分ハ、別段詮義之義、先達而得御意置候通御心得、

是又重而御相談可被成候

右之通御心得御写取、覚兵衛江御返可被成候、以上

寅二月廿二日

得能覚兵衛

荒木平助

石崎市右衛門

長田金右衛門

安藤次左衛門

2、天保一三年「諸万雜窺之上取立方取極候一件写」

(富山大学附属図書館・川合文書竹〇一〇六〇〇)

(表紙)

天保十三年

諸万雜窺之上取立方取極候一件写

(朱書) 「国吉組ひかへ」

戸出又右衛門

一 村々組合頭押領錢御請帳

一 天保十一年分算用帳案文

一 諸郡村々肝煎扶持米取極書上申帳

一 諸郡相談覚書

一 組合頭出役入用米、組才許等出役昼泊之節余荷之儀ニ付窺小紙、

文中引直候様御談ニ付、朱書之通調替上候処、御付札被仰付候事

一 諸郡御扶持人相談覚書

一 村々組合頭御用ニ罷出候砌、料米相渡候儀等ニ付御郡所方〇被仰

渡之事

一 村万雜取立方、高懸・家懸等振分取極之儀奉窺申帳

一 村万造之儀、此末之処御取極之通示合、来春算用帳才許見届、印

章いたし可相渡等之儀覚書

(内表紙)

(朱書)  
「可申渡分」

何ノ何年何月

(朱書)  
「卷」

村々組合頭拝領錢御請帳

(朱書)  
「可申渡分」

何郡

何組

(朱書)  
「御附札」

此案帳通可相心得候事

改作奉行  
印印

一何拾貫文

内  
三百文

何組

何村組合頭

何右衛門

右御郡在々小百姓耕作品々情二入、骨折申旨被仰出、組合頭耆人江  
錢三百文宛拝領仕難有奉頂戴申候、向後小百姓中成立申様介抱仕、  
諸事狼々間敷義無之様縮方相心得可申候、為其御請上之申候、以上

何組村々組合頭

何ノ何年何月

組才許

十村

右何郡何組在々組合頭江被下錢人々江相渡、忝奉存候、御請印形為  
仕上之申候、以上

惣連名

組才許  
名前

御改作

御奉行所

但御請書御役所江不及上、組才許切二留置候事

(内表紙)

(朱書)  
「可申渡分」

天保十二年正月

(朱書)  
「式」

天保十一年分算用帳案文

何組

何村

(朱書)  
「御附札」

此案帳通可相仕立候事

改作奉行  
印印

草高  
一何百何拾何匁  
春秋夫銀

代何拾何貫何百文  
さし合何程

但高老石二付何程宛取立申候

何月何日

一何貫何百文

但  
村方用水普請材木  
現銀買入代与欵

何月何日

一何貫何百匁

何打銀高石二付  
何匁懸与欵

但火事家高等有之候ハ、何程引高残而

但

散役上納与欵

但何ノ役ニ而、乃至耕作舟老艘二付三匁与欵

獵船宛与欵、さし合何程二取立候与欵

御塩代何拾何俵代与欵

但春秋冬三季其人々取立、さし合同断

但是迄八年分取立物通帳之表書記可申取

一何拾何石何斗  
諸返上米与欵

但高老石二付何程宛取立候与欵

銀役米何拾何人分

但老人二付式升宛取立申候

肝煎扶持米

但何石之内三ノ二高方取立申候

肝煎扶持米面当り

但面当り取立之次第書記可申事

走り給米

但何程之内三ノ二高方取立候与欵

同断面当り与欵

但  
外ニ取立物有之候ハ、右ニ準シ可申事

眞何百文

一何拾何貫文  
錢方万造割符高

但高老石二付何程宛取立申候、委細ハ割符帳相添上申候

一何拾何石何斗  
江代米等都而米方余内万造割符高

但村万造等之内江打込割符有之候ハ、其訳一書ニ記置可申事

御馬等  
入用与欵

但

何ノ定役与欵

但

右私共在所去年分夫銀・打銀等、其外米錢万造、其時々取立候分、私共打寄算用帳相仕立書上申候、尤米錢万造之義者百姓打寄精誠詮儀仕、以來ニおゐて。米錢割符仕、取立帳御披見之上御返可被下候、村方算用帳相違無御座候ニ付、私共印形仕指上申候、以上

何村肝煎

組合頭

同

同

百姓

組才許宛所

右何村算用帳、私共立会重々吟味仕候所、百姓中申分之筋無御座候ニ付、奥書仕上之申候、以上

〔朱書〕  
「五ヶ村肝煎也、組合頭八入用無之事」

何村肝煎

〔内表紙〕

天保十二年閏正月

〔朱書〕  
「三三」

諸郡村々肝煎扶持米取極書上申帳

〔朱書〕  
「御附紙」

本文其許中詮儀之通承届、御算用場江相達、請場印相渡候条、以來縮方無遺失相心得、前年之算用帳等毎春組才許遂披見、見届之趣相調印章ニ而村役人江相渡置可申、品ニ寄拙者共及披見候義も可有之事

改作奉行

印印印印印印印

諸郡

御扶持人中

肝煎扶持米定

延宝四年取極、壱石五斗、山方式石、壱石八斗

一小高五拾石迄  
 同貳石、山方貳石五斗  
 一高百石迄  
 同貳石五斗、山方三石  
 一高貳百石迄  
 同三石五斗  
 一高三百石迄  
 一高四百石迄  
 延宝四年取極四石五斗  
 一高五百石迄  
 一高六百石迄  
 一高七百石  
 延宝四年取極五石五斗  
 一高八百石迄  
 同六石  
 一高千石迄  
 同七石  
 一高千五百石迄  
 同七石五斗  
 一高貳千石迄  
 同八石  
 一高貳千五百石迄  
 一高三千石迄  
 但先年書上ニ無之二付、此度割合を以取極申度御座候  
 山方貳石四斗  
 貳石四斗  
 山方三石  
 三石  
 山方三石六斗  
 四石貳斗  
 但山方・里方共  
 四石八斗  
 此度割合を以取極申度御座候  
 五石五斗  
 五石五斗  
 五石<sup>八</sup>斗  
 但先年書上ニ八無之二付、此度割合を以取極申度御座候  
 六石貳斗  
 六石六斗  
 六石六斗  
 七石貳斗  
 八石四斗  
 九石  
 九石六斗  
 拾壹石  
 拾壹石  
 但先年書上ニ無之二付、此度割合を以取極申度御座候

一高三千石以上  
 但右同斷  
 拾五石  
 但村々切万造帳ニ記置可申事  
 一肝煎扶持米高相極候割符方之儀、頭振家老軒ニ貳升宛、其余高二三ノ二、軒數ニ三ノ一割符可仕候、且寺社并御扶持人・十村・新田才許・山廻り・肝煎家指除、残百姓家ニ割符仕候、尤高割之義ハ寺社方等も省不申、惣高割符ニ仕候  
 但村々領付高并新開高三ノ二当り割符、本村同様之事  
 一宿方・浦方之義ハ、村高二不抱、家數暨御用多之所柄、是迄相極居候扶持米給銀図り方有之二付、人家等相増候ヶ所ハ本文ニ準シ取極可申支  
 一塩土方之義ハ、毎月三度宛塩懸候砌、肝煎罷出相調理候ニ付、延宝四年仕法之節、三ヶ年出来塩高平均仕、出来塩千俵ニ付扶持米五斗宛増御座候事  
 一高大所村肝煎兩人或ハ三人相立候ヶ所ハ、其村肝煎扶持米高人数ニ配当之事  
 一浦方肝煎給銀之義、樞五枚を家老軒、家拾軒を高百石ニ仕、里方肝煎扶持米図り同様、壹石直段是迄之通石五拾目替之事  
 一砺波郡五ヶ山銀納所ニ付、外村山方肝煎扶持米図りを以、壹石直段是迄之通石四拾目替ニ而銀子相渡可申事  
 一井肝煎扶持米之義、諸郡区々相成居候ニ付取調理仕、追而御達可申上与奉存候  
 一走り給米之義、村々切ニ而是迄取極居候得共、往還筋等村触次并村送り状等繁敷ヶ所考、給米不同御座候ニ付、今度詮儀之上、村

役人方ニ而取極可申、仍而右給米割符方之義も、肝煎扶持米之振  
を以万造取極帳ニ記置可申

右諸郡村々肝煎扶持米高、延宝四年御窺申上、御開届之上相極居候  
所、百六拾年余相立、村々不同ニ相成、殊ニ村柄ニ寄其後手上高或  
ハ家数相増候所柄も有之、以前扶持米取極候時節与違、扶持米相増  
不申而者村肝煎勤兼申義ニ付、今度増方詮儀仕、以後右扶持米を以  
御用相勤、筆墨料并飯代等諸事入用村方江相懸不申様取極、夫々可  
申渡置与奉存候、勿論小高等之在所ニ而何とか謂有之、前々<sup>(七)</sup>鉦合  
を外シ、扶持米相減居候ヶ所者、才許心得も有之、一円ニ増方詮儀  
可仕義ニ而も無御座候

右私共詮儀之趣御達申上候、以上

丑閏正月

石黒源丞	伊藤八郎
北村与十郎	得能覚兵衛
廣瀬又八郎	荒木平助
田辺次郎吉	石崎市右衛門
瀬尾吉郎兵衛	長田金右衛門
朽木兵左衛門	安藤次左衛門
林孫右衛門	折橋善兵衛
伊藤源次	寺林瀬一郎
西田藤右衛門	斎藤庄五郎
三輪宇八郎	金山十次郎
當摩太間	宝田宗兵衛
北村宗助	杉木弥助
狩野恒方	金山伊三右衛門

御改作

御奉行所

伊東次郎左衛門

結城七郎右衛門

<sup>(宋世)</sup> 此帳面之末御場御奥書也

右見届置候、以上

御算用場印

(内表紙)

<sup>(宋世)</sup> 此帳面村村、江申渡ニ不及事

天保十二年閏正月

<sup>(宋世)</sup> 四

諸郡相談覚書

御扶持人

<sup>(宋世)</sup> 御附札

本文其許中詮儀之通承届、御算用場江相達、請場印相渡候  
条、以来縮方無違失相守、算用帳之義も案帳通相心得、前  
年之分每春組才許遂披見、見届候趣相調印章ニ而村役人江  
相渡置可申候、品ニ寄拙者共及披見申義も可有之事

改作奉行  
印印印印印印印

諸郡  
御扶持人中

一 近年村々万造等諸雜費次第增長仕居候ニ付、以來精誠ニ相成候様詮儀可仕義ニ付、ヶ條大綱左ニ記

一 村々用水井道橋普請入用材木等買入方之義、前広長百姓等立会取調理、其時々通帳等を以調理付置、重而割符之刻紛敷義無之様入念談置可申事

一 春秋夫銀并打銀等、百姓中割符取立物之義、是迄指合等中者煩敷義も有之体、以來ハ早春ハ老ヶ々年分通帳ニ仕立置、組才許等何時引揚致披見候而も、能相分り候様為調置可申事

一 肝煎等は迄御用ニ罷出候砌、或ハ年暮皆済算用之刻、所々飯代中ニハ酒等雜費書出候様之向も<sup>有之</sup>体、甚不埒之義ニ付、以<sup>來</sup>右様飯代等自分払ニ為致可申候、併御用指合候而、代り組合頭之内相勤、宿料有之候ハ、成限為致詮儀可申候

一 御郡所・御改作所、其外加劔改方・魚津御役所等御召人有之刻者、役人宿料迄村方方為償候与欵、村々仕來之義も可有之候間、得与村役人方致詮儀、難決品有之候ハ、組才許江相違、受指図候様可申談事

一 肝煎扶持米増方之義、惣米高之内三ヶ二高割、三ヶ老面割也、諸

郡御扶持人示談之趣御達申上、尤先振を以三ヶ一面割ニ為致可申義ニ候得<sup>共</sup>、是迄村ニ寄居百姓迄之面ニ上中下三段ニ割候様之分も有之、中ニ者面平均ニ割、小前名高之者共及難義候村方茂有之体、以來者懸作面打込三ヶ一ニ当ル内、頭振老軒ニ式升宛取立、此分引去、殘米之内乃至持高老石以下者式升何合とか、五石以下者三升とか、其余五石以上之者面平均割ニ為致可申とか、釣合程能様村方示談之上取極可申事

但百姓數纔ニ而、三ヶ一面割出来兼候様之分ハ、組才許中手前ニおゐて得与調理付、詮儀之趣一郡切御扶持人示談之上取極可申事

一 村々用水江筋取入口普請之刻、并肝煎を始焼飯料と名付、式升宛とか相見料取請居候様<sup>候</sup>之分も有之体、右<sup>等</sup>不相当義ニ付、以<sup>來</sup>者相見料為指止可申事

但御普請用水ニも寄、六ヶ敷所柄有之候ハ、江下等役人示談之上、何とか取極可申義ニ候間、組才許手前ニ而相調理、御扶持人相談可有之候

一 川筋等、定檢地御手合等御普請有之村々、右同断之事

一 村々寄領内普請ヶ所割合いたし、組合頭之内主附を立、人足遣之名目ニ而、乃至老人ニ付五斗、或ハ老石宛とか<sup>相</sup>立、肝煎人足遣も不致様之村方も有之、是等不相当義ニ付、以來者堅為指止可申候、併大村等肝煎老人ニ而手も廻り兼候様之村方ハ、精誠詮儀仕、人足米相極、右様之分者肝煎扶持米之内何程加入為致とか、組才許方ニ而得与加詮儀、其上廻り<sup>口江</sup>相談可有之候事

一 村々寄領之内普請ヶ所入用米、所々ニ而取極、百姓持高二応シ相<sup>究</sup>

勤居候村方も有之、中ニハ入用米何拾石与已前取極、株持同様ニいたし居候村方も有之体、甚夕不埒至極之義ニ付、以来者惣高割を以爲相勤可申事

一懸作多之村方杯者、一村之人足米去年何拾石とか取極、年々取請来候村方も有之、是等甚夕不正之至りニ付、以来相改候様急度詮儀可仕事

一御蔵入御收納米并諸返上等余荷米、区々相成居申候、今般納方嚴重相改候上者、繩皮等余度暨御蔵所遠近を見斗、百姓并小前之者共迷惑無之様、村役人長立候百姓得与示談取極可申事

一走り給米、村寄不有之、往還筋或者御用村送状り状等烈敷ヶ所者大体指定居候得共、其余近来無謂増方ニ相成候分も有之体ニ増方不致而難成村方ハ、肝煎・組合頭等元談之上候間、以来相増候義不相成、併相談之上、隣村多少之振も取調理、村役人方組才許江申達受指図可申事

一村々算用帳調方、区々ニ相成居候ニ付、案文之通以来諸郡一様ニ相成候様可仕候事

一村々米錢万造割符帳、去年算用帳ニ相添指出候上ハ、村々万造定書引行競、尚更村役人手前相尋、定書ニ無之ヶ條者組才許致詮儀いたし、明白ニいたし可申、併不行届義有之共、算用帳ニ申分無之上ハ、何分以来之処急度相改候様取極可申事

一御改作所御普請方有之節、棟梁等ニ而も仕手方ニ罷越申分者、御用宿ニ仕間敷、相对自分払ニ為致可申事

村々高懸・家懸・一面懸諸万造定書

一肝煎扶持米、何程之内三ノ二高方、三ノ一面当り

一走り給米、右同断

一用水香料、何程

一宮番料、同断

一御普請番料、同断

一乞喰等宿余荷

一用水江筋等他村方請地定江代等、何程

一諸役人宿雜費之義ハ、兼而取極之通卦書記置可申事

一諸役所江御呼出人身当雜費者、其人々方為出可申、指添役人宿料高面より余荷方記可申事

一追高面より余荷方記可申事

一村方諸普請人足之義ハ、一日老人式升とか

一藤内給米、何程

但相定候外、若無抛万造江打申臨時之品出来之時分ハ、組才許江相達請指図打可申、其外村々ニ寄定式取極居候ヶ所者、右ニ準シ為書加置、以来遠乱不致様可申渡与奉存候事

右諸郡相談之品、以来遠失不仕様相心得可申、指当り候品追覚書仕、御内分奉窺申候、已上

丑閏正月

石黒源丞	當摩太間
北村与十郎	北村宗助
廣瀬又八郎	狩野恒方
田辺次郎吉	伊藤八郎
瀬尾吉郎兵衛	得能覚兵衛
朽木兵左衛門	荒木平助
林孫左衛門	石崎市右衛門
西田藤右衛門	長田金右衛門
三輪宇八郎	安藤次左衛門

折橋善兵衛  
寺林瀬一郎  
齋藤庄五郎  
金山十次郎  
宝田宗兵衛

御改作

御奉行所

(朱書) 右帳面之末々御場御奥書也

右見届置候、以上

御算用場印

杉木弥助  
金山伊三右衛門  
伊東次郎左衛門  
結城七郎右衛門

本文之趣承届、御郡奉行中江も申遣候事

改作奉行印

小紙

諸郡村々組合頭役之義、其村長百姓之内多分相勤罷在、百姓中開作勢子出情仕候趣を以、万治二年<sup>（應）</sup>限年ニ老人江鳥目三百文宛拜領被<sup>（應）</sup>仰付候、右之通長百姓相勤候役前故、無給銀ニ而相勤可申処、いつとなく諸御用ニ罷出候砌、村方より一日米式升宛相渡候村も有之、小村等不相渡所も有之、或ハ年中料米何程与相極候ケ所も有之、自然与村方雜費相懸申候、且又宿立・町立并湊ケ所ハ右ニ相準シ、雜費方相増居候ニ付、私共示談之上定式御奉行所御出役御用并組才許・新田才許・山廻り村廻り之外、肝煎外御用ニ罷在指合申時分、御藏方并用水方御用等ニ組合頭罷在候砌、一日式升宛料米相渡候得者、雜費方も相減可申与奉存候、尤前段宿立等之ケ所料米員数取極、追而御達可申上候

一 組才許・新田才許・山廻り村廻り之砌、今度私共相談之上、以来上下式人ニ而昼飯代三百文、泊り五百文与相極、右之内宿料式分四分并米代相払候分引<sup>去</sup>、残り村余内ニ可仕、手代賄之義も昼百文、泊り式百文之内、宿料式分并米代主人方相渡、右同様取極仕度奉存候、且又山方等無御座組々才許廻村之義者成限其日毎帰宅仕相廻可申筈ニ御座候、右私共示談之上取極仕度奉存候ニ付、御内分御達申上候、以上

丑閏正月

石黒源丞

田辺次郎吉

北村与十郎

瀬尾吉郎兵衛

廣瀬又八郎

朽木兵左衛門

(内表紙)

(朱書) 一可申渡分

二五

組合頭出役入用米組才許等  
出役昼泊之節、余荷之義  
ニ付窺小紙文中引直候様  
御談ニ付、朱書之通調替  
上候处、御附札被仰付候事

(朱書) 一御附紙

- 林孫右衛門
  - 伊藤源次
  - 西田藤右衛門
  - 三輪宇八郎
  - 當摩太間
  - 北村宗助
  - 狩野恒方
  - 伊藤八郎
  - 得能覚兵衛
  - 荒木平助
  - 石崎市右衛門
- 
- 長田金右衛門
  - 安藤次左衛門
  - 折橋善兵衛
  - 寺林瀬一郎
  - 斎藤庄五郎
  - 金山十次郎
  - 宝田宗兵衛
  - 杉木弥助
  - 金山伊三右衛門
  - 伊東次郎左衛門
  - 結城七郎右衛門

御改作  
御奉行所

(内表紙)  
(朱世)「此分ハ申渡ニ不及、才許心得之品」  
(宋世)「六」  
 天保十二年閏正月  
 諸郡御扶持人相談覚書

一懸作高居村江取返方窺帳御聞届之上ハ、諸郡共示談之趣、一郡切御扶持人手前ニおゐて組才許中江窺帳之趣意申談、村役人江ハ春村廻り之刻無<sup>急</sup>度申談候ハ、可然、組才許中右窺帳写取、年若之面々・手代等ニ為写、自然与下<sup>毛</sup>方江相洩、御扶持人十村役向第一之高方申渡候而も、人々之得手江取繕、彼是評儀抔いたし、世上江申ふらし候而人氣ニ相抱<sup>抱</sup>、不穩義ニ候間、御扶持人之勤向・組才許勤向暨村役人勤方階級相立不申而者、末々まで諸事取次<sup>治</sup>方全行届兼可申候間、御扶持人能会得仕、夫々仕抹仕度義ニ御座候事

一諸書物易<sup>簡</sup>ニ相減候様仕度、村々人馬帳調方、中ニハ持高迄も相調御座候、右ハ持高帳去年方出来候ニ付、以来ハ指省、人馬迄為調候ハ、可然哉相談之事

一宗門御改ニ付、是迄ハ出生之男女、村ニ才許江書付を以及案内候、習養子・嫁等出来案内共、組才許江書付取立候、以来ハ養子等出来之分迄書付等取立、出生案内書付相止可然哉之事

一村送り之義ハ、其品<sup>其</sup>ニ寄遅速有之候間、其所才許ニおゐて手代江得与申談、村送り状度致いかニも相減候様仕度事

一人々召仕候手代之義、御奉行所御直支配之節相勤候手附之心得方とハ相替居候得共、御仕法以前之手代心得方程ニハ全至兼候人々も有之候間、此義尚更主人々々諸向心得を以常々申諭候而、自然与心得方相直り候様可仕事

一才許村廻仕候而も、其日帰ニいたし可相弁ケ所、成限其心得を以可致村廻候、併山方等有之、其日帰ニ不相成ケ所ハ、先々ニおゐて泊可申候得共、常々其心得を以不時成泊り不仕候様<sup>互</sup>ニ可相心

得候事

一伊勢田等村々田地之内を以先年より致寄進等置候分、田地割之節、致竿除置候分、此度相改候様、御紙面を以被仰渡候、右ハ村々役人手前江申談、早速為相改可申候、重而御田地割有之候節相改候杯与申居候義ハ不相成義ニ候間、被仰渡候通急度相改可申、此義組才許了簡速無之様可申示事

一組才許方御改作所江達方諸書物之内、定式之品并註進書物等之外、廻り口御扶持人連名御郡惣様江懸り候書物ハ都而御扶持人連名、別而高方ニ付窺等之品者御扶持人連名ニ調可申候事

一御郡所江達方書物、大体組才許中迄ニ候得共、願方等之品廻り口連名、品<sup>ニ</sup>御扶持人連名ニ而達方可仕、右之通相極候品ニ候得共、才許中之内区之義も可有之哉ニ付、得与示合申度事

右著御郡方御仕法追々相整、從來難渋之村方御取持、且村々煩之品御指省、万端易簡ニ御取扱一統穩ニ相成候而、百姓中致安堵、開作手厚ニ相励、古來質素之風義不取失、末々迄全成立候様被仰付度根源之御主意ニ付、先能美・石川等難渋村御仕立も被仰付、諸郡之義も組才許・御扶持人精誠遂穿鑿、御願申上候得ハ、夫々御詮儀可被成下候義、何分前件之御趣意諸郡御扶持人深奉会得、御郡々取活方常々厚心懸、十村中申談、尽身力精勤可仕旨兼々被仰渡之趣奉得其意、今般私共打寄、示談之品々先指当義覺書仕、御内分奉窺申候、以上

辛丑

閏正月

石黒源丞  
北村与十郎  
廣瀬又八郎  
田辺次郎吉

瀬尾吉郎兵衛

朽木兵左衛門

林孫右衛門

伊藤源次

西田藤右衛門

三輪宇八郎

當摩太間

北村宗助

狩野恒方

伊藤八郎

得能覺兵衛

荒木平助

石崎市右衛門

長田金右衛門

安藤次左衛門

折橋善兵衛

寺林瀬一郎

斎藤庄五郎

金山十次郎

宝田宗兵衛

杉木弥助

金山伊三右衛門

伊東次郎左衛門

結城七郎右衛門

御改作

御奉行所

〔朱書〕  
「六二附」

懸作高居村江取返シ方等ケ條書を以相窺置候帳面、御改作所方御渡、此義ハ御互ニ心得置候趣窺之品ニ付、御聞届被成候与申ニ而ハ無之、帳面窺之趣御聞置ニ候間、此通何レ茂相心得候様被仰聞、則右窺帳御渡被成候ニ付請取置申候間、此段為御承知如此御座候、尚委曲ハ重而御出席之節御談可申候、以上

丑三月十日

諸郡

御扶持人中様

廣瀬又八郎

追而落着方御返可被成候、以上

此分三月相廻候得共、取返高之義ニ付窺帳、砺波郡・射水郡方御達申上置候故、其義与存罷在候処、七月出府之上、廣瀬又八郎江相尋候所、閏正月相達候諸郡御扶持人相談覚書卜申帳面ニ附置候廻状之旨、廣瀬氏申聞ニ候、依而此所江写入置候

丑七月

得能覚兵衛写

〔朱書〕  
〔七〕

諸郡村々組合頭共之儀者、其村長百姓之内方相勤候役前故、無給銀にて相勤可申処、いつとなく諸御用ニ罷出候砌、村方方一日米貳升宛相渡候村も有之、小村等不相渡所も有之、或八年中料米何程与相極候ヶ所も有之由ニ而、自然与村方雜費相懸り、且又宿立・町立并湊ヶ所ハ右ニ准シ雜費相増居候体ニ候、依之定式奉行出役并組才許・新田才許・山廻<sup>等村廻</sup>之外、肝煎外御用ニ罷出指合申時分、御藏方并用水方御用等ニ組合頭罷出候砌、一日貳升宛料米可<sup>相</sup>渡候、前段宿立等之ヶ所料米員數之儀ハ追而遂詮儀可申聞、其上にて取極可申渡候

一組才許并新田才許・山廻り村廻り之砌、以来上下貳人ニ而、昼飯代三百文、泊り五百文与相極有之内、宿料貳分四分并米代相払候分引去、殘村余荷可致、手代共賄之義も昼百文、泊り貳百文之内、宿料貳分并米代主人方相渡、右同様取極候、且又山方等無之組々才許廻村之義ハ、成限り其日毎掃宅可致事

右之趣得其意、村々江も一統不相洩様夫々申渡候、以上

丑  
三月

三州  
御郡奉行  
印

猶以早々先々相廻シ、落着方可相返候、以上  
諸郡  
同 十村中  
同 新田才許中  
同 山廻り中

近年諸向難渡之時節柄、村方余荷方等多ク相成可為迷惑候、是迄諸奉行等出役之時分、賄方中ニハ馳走ヶ間敷体粗相聞得候、猶亦先年方申渡置候通り、無違失相心得候様可申渡候、尤拙者共御郡廻等致出役候節、馳走ヶ間敷義無之様為相心得可申候、其節宿余荷等大体相極可申聞候、追々申渡候趣可有之候得共、今度其元中賄方之儀ニ付申聞候趣有之候ニ付、先此段申渡候事

三月  
三劔  
御郡所

御別紙而通御郡所方御渡、諸郡江相廻候様被仰談候ニ付、則廻状相添差進候間、早々御廻達、從落着御返可被成候、以上

丑三月十日  
廣瀬又八郎

諸郡  
御扶持人  
十村中様

※ 石川県立歴史博物館所蔵の後藤家文書八二（諸覚書）（十代

次郎一筆」には、右の記事に続いて左の添書がある。

「別紙御触写仕指上申間、御受取可被下候、以上

三月十二日

番代

市兵衛

得能覚兵衛様

杉木御役所

御詰番中様

(内表紙)

天保十一年七月

(朱書  
一八)

村万雑取立方高懸・家懸等振分取極之儀奉窺申帳

砺波郡

国吉組

御扶持人

村万雑取立方

一高懸り之品

一家懸り・面懸り之品

但家懸りハ老軒ニ付何程宛与ノ為指出、面懸りハ上面・中面・

下面三段、或者五・六段ニも相立、割符方仕候品ニ御座候処、

大体此両品村々ニ而ニ様ニ者不仕義ニ付、両品一集ニ書上申候、

且町立ケ所ニ而者分限相定、分限ニ割符仕候ケ所も御座候

一人々々出候品

一人々々出候品、并右両品高方々余荷仕候品

一高・面両方江歩分を以取立候品

右五品ニ振分候品々、巨細左ニ書上申候

高懸り之品々

一夫銀

一跡々御貸米返上

一諸郡打銀

一用水打銀

一御郡万雑

一組万雑

但其品ニ寄家懸り割符仕候品々も有之候得共、村方ニ而者一体

高懸り々組万雑与して取立申候、人当り之儀者其人々々取立来

候故、此迄之通ニ為取立可申候

一村切用水堤普請入用銀并人足料

一用水江代米并格銀料米

一定檢地御手合御普請方引足銀

一水下銀

一川筋自普請雜用并人足料

一御知行出百姓分持參出府雜用、泊り賃并日雇賃等

- 一 御給人知早稻初穂米余内、并持参人足料
- 一 御給人等夫銀上二付出府雜用、泊り賃并日雇賃等
- 一 御皆濟請取人日用雜用
- 一 御給人<sup>之</sup>内式重儀之分余荷
- 一 御藏御米余荷、并上卷繩皮代
- 一 御借知御米上卷賃
- 一 御米馬下余荷
- 一 御附越米駄賃余荷
- 一 御老中様等御引米二付人馬割符余荷
- 一 粃納余荷
- 一 川下御米上乘賃
- 一 御參勤 御帰国 御通人馬余荷等
- 一 御改作御奉行所宿余荷
- 一 御扶持人春廻り宿余荷
- 一 同断二百十日廻り宿余荷
- 一 組才許廻村宿入用
- 一 用水見分宿余荷
- 一 用水江番米・水番米
- 一 石砂入等之ヶ所起返余荷
- 一 出水二付領困遊・そた等代、并人足料
- 一 他村加勢人足余荷
- 但此分定式二而<sup>之</sup>無之、非常之節之夏二御座候
- 一 往還道造、并村方道造入用、并掃除人足料
- 一 高附二相成候山役銀

- 一 川除御普請所番米
- 一 并肝煎給米
- 一 御藏所之内、宗守御藏升廻シ等之砌、御役人宿余荷
- 但此分藏下村々高方<sup>之</sup>余荷仕申候
- 一 城端等馬下ヶ所、津澤・鴨嶋二而仮下敷米
- 但藏下高懸り
- 一 備荒倉地子米并番賃
- 一 作損御貸米御藏向御印出遠・<sup>斗</sup>返入用
- 一 夫喰御貸米、右同断請取寄人足料
- 一 御藏下敷米
- 一 新田才許新開廻り之節宿余荷
- 但此分新開高懸り
- 一 福光斗藏地面年貢、藏下高懸り
- 一 福野御藏馬下賃銀余荷、藏下高懸り
- 一 領之中檢使方入用
- 家懸り・面懸り之品々
- <sup>(米世)</sup>一 宿立ヶ所迄
- 一 先喰等宿米并物賣とむせ錢
- <sup>(伝)</sup>一 転馬役銀
- 宿方家・面懸り
- 一 浪人・虚無僧并乞喰宿入用、并右二付人足料

一 火難逢候者取始抹

一 所々出火之節諸人足

人々出候品

一 不埒之參会御詮儀入用并人足料

一 賊いたし候者入用并人足料

一 賊難ニ付入用、并人足料

一 喧嘩・口論懸り合一件入用、并人足料

附り見届方入用

一 井波瑞泉寺・城端善徳寺・古国府勝興寺等仏供米

人々出候品并万雑家懸・面懸之品、高懸り余荷仕候品

一 散小物成・川役銀

但御印役之分、鮎川・鮭川・鱒川・鹹川役銀、殺生仕候者有

之候得者、御役銀上納仕候得共、殺生仕候者不罷在時者御印

役ニ付高方上納仕申候

〔朱巻〕  
「此三口退転願出可申事」

一 同断鍛冶役・紺屋役・室屋役

但御印役之分、右商売仕候者罷在候得者、商売人々指出候得

共、右商売仕候者罷在不申候得者、御印役ニ付高方上納仕

申候

一 諸鳥殺生御役銀

但請負人罷在候殺生仕候者罷在候得者、殺生人々上納仕候得

共、多分請負人々一村切ニ下請仕、殺生人々為立込不申村方ハ、

高方出候事ニ付、元來諸鳥作物喰荒候ニ付願上、鳥殺生御

免被仰付候ニ付、領之広狭ニ依而役銀割符仕置候故、鳥殺生

二 不抱御役銀取立申候

一 困窮人屋敷年貢米等

一 火難・水難手伝人足料

但面ニ懸候得共、格別手ニ合不申村方ハ、高方余荷可仕候

一家内変死之者見届方雜用并人足料

但此雜用之儀者、其人々指出錢高口其時々取極可申事

一 駅方手伝人足

一 駅請万雜

一 水附家并火夏家等御貸米返上

但借用人々可指出候得共、難渡人ニ而出道無之分、高方余

荷可申支

一 村方難津人死人有之節焼手間

一 御郡御奉行所御廻村御宿入用

一 魚津与力中廻り宿入用

一 同同心中宿入用

一 加州改方宿入用

一 矢筥竹御奉行宿入用

一 御作事方宿入用

一 困窮人救方

高・面両方江歩分を以為取立候品々

一 肝煎扶持米

但高二三ノ式、家・面二三ノ卷

一 村走り給米

但此分高三ノ式、家・面二三ノ卷割符、頭振ハ老人式升宛為出、

右給米之内引殘而右之通割符可仕候

一 廻り藤内給米

但組方高・面半々取立可申候

一 御用紙面持届余荷

一 宿村送り者入用

一 奉秋兩度氏神祭礼御祈禱料并宿入用

右村万雜之義、是迄取立方区々ニ相成居、就而ハ申分出来仕候族茂有之、其時々組才許等ニおみて詮儀仕候而茂根元不一様事故、一旦取極等仕候而茂尔与以後之取極二者相成兼候儀も御座候二付、今般私共相談仕、高懸り・家懸り・面懸り等之品、右之通以来振分仕候ハ、可然奉存候、右振分書上候外、不時成義等ケ條ニ洩候品茂可有御座候得共、前文之品<sup>ニ</sup>准シ相定可申与奉存候、就夫家・面懸り品々米錢余斗ニ相成候而ハ、輕キ者及難渋候事右、村ニ寄先年々面米相極置、い<sup>ニ</sup>か<sup>ニ</sup>体<sup>ニ</sup>雜<sup>ニ</sup>用<sup>ニ</sup>高<sup>ニ</sup>ニ相成候共、乃至上面五升・中面三升・下面壹升・半面・四半面杯与面米取極之外者一円面役不指出、其余都而高割ニ仕来候村方茂有之、ケ様之村方ニおゐて前段書上候通、一時ニ

相改、自然難渋弥増候儀ニ御座候而ハ不相成義、村柄ニ寄候而者可

有御座候得共、多クハ無御座義ニ候間、左様之所ハ猶又詮儀仕候義

も可有御座、先ハ此末右様之振分を以夫々為相改、随分万雜方省畧

仕候様為仕申度奉存候、猶更御詮儀之趣被仰渡被下候様仕度奉存、

此段奉伺申候、以上

天保十一年七月

得能覚兵衛

荒木平助

石崎市右衛門

長田金右衛門

安藤次左衛門

御改作

御奉行所

本文万雜定書草案之通ニ而可然存候条、諸郡江も此通ニ准シ可相心得旨可及演述候夏

改作奉行  
印

村々万雜是迄取立方区々相成居候二付、以来取立方取極之儀致詮儀御達申上候様、先達而御改作所方被仰渡候二付、詮儀之上、別冊御

伺申上候処、御奥書被成御渡二付相廻申候間、御写取、夫々御申談可被成候、尤減方之儀者猶又被仰渡候義茂有之、追々可申談候得共、何分指当口雜用高相減候様可相心得旨、訳而御申談置可被成口、且此帳面寄合中御写取、覚兵衛方へ御返可被成候、以上

丑三月九日

得能覚兵衛印  
外御用  
荒木平助

石崎市右衛門印

長田金右衛門印

安藤次左衛門印

山田 太美 井口 石黒 蟹谷 野尻

山見 庄下 般若 若林 糸岡 宮嶋

五位 国吉 五ヶ山両組

右組々

御才許中様

※ 八の本文中の傍線・抹消線と一つ書の上の横線は朱書。

(朱書)  
一可申渡分

九 覚書

一村万造之義、近々寄合之上、此末之処御取極之通示合、来春算用帳才許見届印章いたし可相渡事

タリ  
附たり算用帳致印章相渡置候於村方、諸書物またし方不行届候間、扣帳才許方ニ取立置可申

一用水方を初、手代見分として指出候節、手寄之御支配速之町立等

江致出宿候義有之、甚以外聞不宜候間為指止、其ヶ所々々におゐて事軽ク、<sup>(ママ)</sup>附々江下役人中大勢罷出候、致同宿候族有之体ニ候間、為惣代不用之人々者罷帰可申、兎角宿雜用相減シ候様可心懸事

丑八月寄合

一肝煎扶持米取立方ニ茂頭振ニ式升為出候事ニ窺置候帳面与、村走り給米窺方帳面ニ茂頭振式升宛取立候事ニ相成、左候而ハ四升ニ相成候得共、左候而ハ頭振迷惑仕候間、頭振式升出候分ハ、肝煎扶持米之方江入可申事ニ此度寄合相談いたし候事

御懇書忝拜見仕候、如尊命暖和二相成、弥御揃御安泰珍重奉賀候、私安否御尋被下忝無為在府罷在申候、御子息様等方御加書忝宜布御鶴声奉希候、然者此節御暇之因之所、先達而上置候諸郡肝煎扶持米取極伺并御扶持人相談覚書帳・万雜案文帳御席江御達有之候処、取縮方宜敷、依而御聞濟之段、私・廣瀬氏兩人御役所江御呼立、<sup>(新兵衛、改作奉行)</sup>安田様等方被仰談、就夫右三品帳面御席江巻通り、御算用場ニ巻通、御改作所ニ巻通り、外巻通相調、四通り指出候様、先月廿六日御談、外ニ御扶持人相談覚書、是ハいまた御相談中ニ付、跡江被付、右三品之分御聞届之段御付札被成、御役所御印章有之、以来之押ニ心得候様御談、今日四通り之分上申候、外ニ去年七月砺波方御上被成候万雜ヶ条書今巻冊出候様被仰談、是ニも御付札、諸郡江夫々談候様ニとの御詮義振ニ御座候、<sup>多分</sup>多分四日ニ御渡御坐候得ハ、諸郡江其段廻達仕候、左様御聞置可被下候、委細ハ追々御相談可申上候

一昨日林源多郎様加笏御郡御奉行兼役、廣瀬準九郎様御郡奉行兼役御免二御座候、此外相替候義も無御坐、当時詰合荒木氏之外、諸郡同役中詰無御座候、右御報迄早々申上候、以上

三月二日

得能覚兵衛様

折橋善兵衛

〔朱書〕

〔式印〕一算用帳案文

〔朱書〕

〔八印〕一村万雑仕立

〔朱書〕

〔七印〕一御郡所御触

右之品村々江可触出事

丑六月四日寄合相談

3、天保一四年「万雑取立方取極ヶ條書」

〔富山大学附属図書館・菊池文書KKBO二二〇〇〇〇〕

〔表紙〕

万雑取立方取極ヶ條書

万雑等取立方、是迄村々二寄区々之仕来二付、以後割封心得方等之義、村々相尋候趣聞取書

一懸作面打込割封之品者、肝煎扶持米并走り給米も肝煎扶持米之振を以取極可申、其余指図無之義者致申間敷段申渡有之候得共、是迄丁持之義、村二寄高二三ノ二、面二三ノ壹懸作共指出来候分等有之、村々二おゐて区々二候間、是迄之通高懸り者不及申、掛作面共取立来候分者取立、余荷渡方等村々仕来通二仕可申哉

附り、右丁持米之義、頭振も是迄面当り指出来候ヶ所も有之、中二者名高持之内、極難洪人面用捨いたし置候分茂有之、頭振

二而も都而身元可成之者も有之二付、村二寄而取立方之次第速申候得共、先前々村格等を以仕来候二付、其通り二可仕訳与も

存候得共、頭振之義肝煎扶持米江も式升、村走り給米江も式升、合四升為指出候而者迷惑可致義二付、式升迄者肝煎扶持米之方

江為出候様、先達而申渡も有之、其通り二いたし、走り給米之義者頭振指省キ候ヶ所も有之二付、右丁持面取立方之義相尋候

段申聞候

〔朱書〕  
〔付札二〕

丁持有之村者、走り給米少ク故、丁持なしニ走り立置候村与同様之訳二候、正徳年中之極口而見候得者、走り給米同事ニ割封之事ニ相成居、是迄村々二おゐて仕来之義も有之候間、夫等も相用可然、頭振之義者一方江式升為出候様二可致事

高・面両方江歩分を以為取立候品々申ケ条之内

一廻り藤内給米

但高二半分、面二半分与申渡有之候、此分掛作面打込割封<sup>(4)</sup>可仕哉

<sup>(朱世)</sup>  
「付札二

掛作面者指除割封之事」

一御用紙面持届余荷

右此分前段丁持之ヶ条指図有之候、面者其通り相心得申度旨申聞候

<sup>(朱世)</sup>  
「付札二

本文余荷方之義、丁持ヶ条附札通二候事」

一宿村送り者入用

一春秋兩度氏神祭礼御折祷料并宿入用

但此式ヶ条高当り指出候事故、面当り之分ハ掛作面者指省キ、其村込之面懸りニ可仕義与心得候段申聞候

右高・面両方歩分を以取立候ヶ条之内、肝煎扶持米・村走り給米之義者懸作面打込与有之、相分□□候得共、前段四品之分村々ニ而者分り兼候ニ付相尋候段申聞候、其余家懸り・面懸り振分之分者都而掛作面指省キ、其村々込之家懸り・面懸りニ而取立可申義与奉存心得候段申聞候

<sup>(朱世)</sup>  
「付札二

此式口、其村込之面懸りニ可致義ニ候得共、前々□□掛作面江も懸来候分者其通、今更新々ニ懸作面江懸申筋ニ而者無之候得共、納得之義ニ候得者格別、勿論家懸り・面□□り振分ヶ之分者都而懸作面指省キ之事」

一肝煎扶持米之義者、取極り候米数ニ付、極難□者等出道無之分ハ、乃至面割□ニ而五合面を、或者五合何□与欵ニ見込、其釣合を以征仕出取立候得者、別ニ余荷方者入用無之候得共、鍛役米之義者人別上納物故、極難渋者等ニ而是非出道無之分ハ、高方并村々々面方々も余荷候而相弁来、区々ニ相成居候得共、根元人別□而之品ニ候得者、□□□切家懸り・面懸り両様之内、余荷ニ而相弁可申、取立方之様子巨細ニ算用帳ニ調可申義与存候ニ付、相尋候段申聞候

附り小村或ハ極難渋村ニ而、家懸・面懸り幾重ニも出道無之分

者、惣高余荷ニ可致哉ニ申聞候

<sup>(朱世)</sup>  
「付札二

余荷之義ニ候得ハ、其村々切家懸り等ニ而可相弁義、<sup>(以下、記述なし)</sup>「いづれ」

右村々々尋之趣有之、一様二者不相成、是込村格等も有之ニ付、此

度示談之上、大綱付札之通取極候事

<sup>(朱世)</sup>  
天保十四年卯閏九月

御扶持人

一但是込村々仕来之義も可有之、併ながら高割とてハ不相成、小村等ニ而家懸り等出道無之分ハ、無抛詛ニ候間、高方々余荷之詮義も可有之事」

〔付記〕史料の調査・閲覧にあたっては、富山大学附属図書館の伊藤芳人

氏、石川県立歴史博物館の岡崎道子氏・塩崎久代氏に、高配を賜つ

た。記して感謝申し上げます。